



日本貿易振興機構(ジェトロ)

海外農林水産・食品ニュース (Food & Agriculture)

食に関するアジア人の嗜好 – アジアからの留学生を対象に食に関する嗜好性を調査 – (日本)

ログアウト

香川貿易情報センター発

2017年02月06日

香川県に本拠を置く一般社団法人おいしさの科学研究所では、日本に居住するアジア各国からの留学生を対象に食に関する嗜好性について調査した。以下、同研究所山野善正理事長からの寄稿を掲載する。

「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことが和食ブームを後押しし、日本食輸出の促進や拡大に火が付いた。以前から、学問的に貢献できないかと構想を練っていたが、このたび、この構想の先鞭（せんべん）として、食に関するアジア人の嗜好性調査を実施した。

本調査は、ジェトロからの紹介を得て、新潟県魚沼地域にある35年の歴史を持つ外国人向けの大学院大学「国際大学（International University of Japan）」の協力により実施した。対象はインドネシア、カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマーからの各10人の留学生、およびこれに日本人10人を加えた計60人。まだあまり日本食になじんでおらず、また、帰国すれば日本の産物を購入してくれることが見込まれる留学生を対象としたところが、本調査の特色である。



国際大学での嗜好性調査の様子（山野善正氏提供）

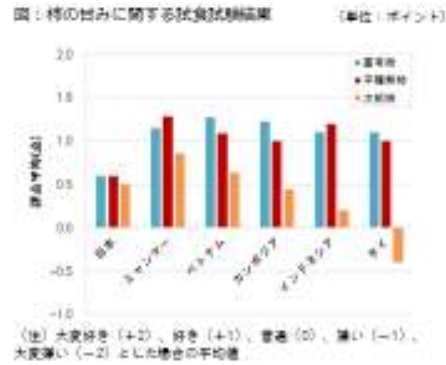
<調査1：柿>

海外からの留学生にとってあまりなじみのない柿3種（富有柿、平種無柿、次郎柿）について、甘味、テクスチャー（食感）および総合的な好き嫌いの三つについて質問した。

このうち、甘味では、日本人はすべての柿の評点が0.5～0.6ポイント程度とあまり高くない（図。好き+1、普通0。評点については図の注釈参照）。これに対し、外国人は富有柿、平種無柿の甘さは好むが、それらに比べ次郎柿の甘さへの評点は低い。特にタイ人からの評点はマイナスであった。3種の柿の甘さに対する味覚感の傾向は、カンボジア人とベトナム人がよく似ていた。

テクスチャーは、国によってそれぞれ特徴的な傾向がみられた。特にインドネシア人、ベトナム人およびタイ人は、次郎柿のテクスチャーは「良くない」ということであった。総合的な好き嫌いには、国によってかなりの違いがみられた。

なお、実際の試食試験と同時に、味覚センサーおよび力学的測定機により甘味やテクスチャーを数値化し、各留学生の好みと測定値との関係が得られているので、以後この数値が役に立つと考えられる。



<調査2: だし>

和食の味の基本であるだしについても同様に調査した。昆布、かつお節、いりこをみそ汁にして飲んでもらい、好き嫌いについて答えてもらったところ、意外にも、すべてのみそ汁について平均値は「嫌い」という方向にはならなかった。ただし、国によって好みの種類はかなり異なる。例えば、インドネシア人はいりこのみそ汁を「大変好き」と答え、評点も高かった。一方、タイ人は、いりこよりむしろ昆布とかつお節の方が評点が高かった。

これらの結果は、文化的、地政学的にも興味あるものであり、調査手法と併せ、現実の農産物、食品の輸出に役立つと幸いである。

(おいしさの科学研究所理事長 山野 善正)

◆◆ Food & Agriculture 3124 ◆◆
(日本)

Food & Agriculture 6d0d8c0f7fbe48f5

この情報はお役に立ちましたか？

役立った 役立たなかった

1 2 3 4

送信

ご質問・お問い合わせ

サービスの内容について

メールで問い合わせる

農林水産情報研究会 (農林水産・食品部内)
Tel : 03-3582-5019

ご請求などについて

メールで問い合わせる

メンバー・サービスデスク
Tel : 03-3582-5176